令和３年度　第１回丹波市総合教育会議　会議録（要約）

日時：令和３年６月 24 日（木）午前 10 時 35 分～午前 11 時 30 分
場所：丹波市役所山南支所３階　教育委員会室

出席者

市長	林　時彦
副市長	細見　正敏
教育長	片山　則昭
教育長職務代理者	深田　俊郎
教育委員	出町　慎
教育委員	横山　真弓
教育委員	安田　真理
総務部長	太田　嘉宏
教育部長	藤原　泰志
足立次長兼学校教育課長	足立　和宏
教育総務課長	足立　勲
総務課長	荒木　一
教育総務課企画調整係長兼庶務係長	足立　真澄
総務課総務係主幹	青木　明美

傍聴者　１名

１　開会

〇太田部長

２　市長挨拶

〇林市長　挨拶
〇太田部長　傍聴人の報告
〇出席者自己紹介

３　協議事項

（１）教育大綱について

〇太田部長　資料に基づき説明

・現行の丹波市教育大綱については、令和２年２月 21 日開催の令和元年度第３回目の丹波市総合教育会議において協議し策定したものである。

・本日は年度当初の会議であるため、大綱の内容をご確認いただきたい。

・現行の大綱について、変更や見直しが必要であれば、今後、総合教育会議で変更に向けた協議を行ってく。

（意見なし）

（２）教職員の働き方改革について

〇足立次長　資料に基づき説明

・令和３年度を未来への第一歩を踏み出す１年と位置付け、子供たちの学びを止めない学校の実現を目指し、自学自習、自走できる学びに向かう力の育成を、最上位の目標とし取り組みを推進している。

・教職員の働き方改革については、児童生徒の育成や学びの実現の基盤になるものと考えている。

・教職員が集中して取り組める環境の整備が重要と考えている。

・コロナがきっかけで、前例にとらわれることなく、その本来の目的を問い直したことは、教職員の業務改善にも繋がった。

・教育改革実践者を積極的に招聘し、校長が自らの学校の教育改革に繋げてきたことが背景にあると考えている。

・今年度の管理職研修については、子供達の主体性に主眼を置き、学校の校則についても考える場を持つ予定にしている。

・教職員の働き方改革の市民周知に関しては、学校だよりやホームページで行っている。

・昨年度の毎週水曜日の定時退勤日の実施状況は、29 校のうち 28 校がほぼ毎週実施できている。

・中学校の部活動については、今後、保護者や市民に理解や協力を求めていく。

・部活動が、中学校教職員の超過勤務の主な要因となっている。

・文部科学省が、令和５年度以降、休日の部活動の段階的な地域への移行や、休日の部活動の指導を望まない教職員が、部活動に従事しなくてもよい環境の構築を打ち出している。

・丹波市では、今年度より、部活動検討委員会を立ち上げ、部活動の現状と課題整理を行い、PTA や関係部局とも協議を重ねていく。

・朝練習をなくした学校が現在３校ある。

・部活動指導員として、地域で専門性を有した方７名に練習や試合等に従事してもらっている。
・経験のない部活動の顧問として、生徒を指導することに不安と強いストレスを感じている教職員が多くいるため、教職員の部活動に対する負担軽減を図っていく。
・プリントの印刷等の業務支援として、県補助事業によるスクールサポートスタッフ 1 名を青垣小学校に配置しており、教職員の業務の負担軽減に効果が高いことから、昨年度より、同様の業務に従事する方を市費で６名配置している。
・平成29年度より学校運営協議会制度の導入を進め、現在すべての小学校と、５つの中学校に学校運営協議会を導入している。
・コロナ禍においては、放課後に実施していた教職員による、校内消毒作業への負担軽減として、保護者、地域の方々からボランティア申し出をいただいた。
・保護者や地域の方々の参画により、学校教職員が担って当然となっていた業務を見直し、業務の分担が進むように取り組んでいく。
・平成 26 年より、校務支援システムを導入したことにより、事務作業の効率化が図れている。
・学校においても、会議のペーパーレス化や、パソコンへのメッセージポップにより、朝の会議の削減や短縮を進めている。
・昨年度より各校に留守番電話を導入し、一定時刻以降、集中して業務に取り組める環境を構築している。
・超過勤務者は、令和元年と比較し減少しているが、さらに減少するよう取り組んでいく。
・令和２年度、80 時間を超える超過勤務を行っている教職員 10 名が、学校長による面接指導や産業医による健康診断と面接指導を受け、改善した職員もある。
・コロナ禍により、これまで以上に、注意深い観察や、個別の支援が必要な児童生徒の増加が、教職員の心的肉体的負担になっている。

〇林市長
・令和２年度の７月と10月に突出して、残業時間が多いのはどういう理由か。
〇足立次長
・７月は成績処理の時期。令和元年３月から令和２年６月中頃まで、臨時休校となったため、そのしわ寄せが７月にきた。
・10 月は、感染状況が増えたことにより、１学期の行事をすべて２学期に先

送りしたための対応による。

・令和２年度は夏休み期間を２週間に短縮したため、８月も超過勤務者が増えている。

〇深田委員

・働き方改革について、教育委員会の事務局の勤務時間、丹波市全体の公務員の超過勤務時間を教えてほしい。教職員が特殊なのかどうかを判断していきたい。

〇太田部長

・令和２年度は、教育委員会に勤務する職員も含め延べ 440 人程度が、月 45 時間以上の超過勤務をしている。

・全庁挙げて働き方改革に取り組んでいるが、昨年はコロナの影響でイレギュラーな対応があった。本年度、一部の部署では、何とか改善しようという行動を起こすところも出てきた。

〇藤原部長

・教育委員会事務局では、45 時間を超える勤務をした職員は、何名かいるが多くはない。ただ、年度末や年度当初には相当数残業している面はあると思う。

〇深田委員

・教職員は異常に近いという話なのか。

・小学校の先生の一般的な１日の行動、中学校の先生の１日の行動を説明いただきたい。その上で、部活動なりスクールサポートスタッフが助かっているという部分に繋げていきたい。

〇足立次長

・中学校の教職員は、部活動の朝練習が７時半頃から始まり 30 分の超過勤務が発生。勤務終了後の部活動でも超過勤務が生じる。

・中学校の教職員は小学校の教職員よりも、若干授業時間数は少ない。最大で 18 から 20 時間程度。

・小学校の教職員、登校指導等がない場合は、８時前に勤務を開始し、４時 40 分で勤務終了。放課後は、パトロールを実施。教材研究はその後。

・自分の受け持つ授業ばかりという日が、１週間の中で数日ある教職員がほとんどである。

・生徒指導上、給食指導や掃除の指導等、目が離せない部分がある。

〇太田部長

・超過勤務について、市の職員と教職員では教職員の方が多いと言えるのではないか。

〇安田委員

・ＩＣＴを活用した業務の効率化、ペーパーレス、会議の短縮などによりどれくらい公務の短縮ができているのか教えてほしい。

〇足立次長

・ＧＩＧＡスクールのタブレットを使った授業改善では、教材をタブレットで一斉送信できるという部分について、時間が短縮できているという声もある。

〇林市長

・中学校のクラブ活動をしっかりやって欲しいと思っている。

・社会人の方のサポートが大変良いことだと感じている。

・先生の負担を軽くするためにも、地域の中から人材を探し出して進めていって欲しい。増えていく方向ではあると思うが、それについてはどのように指導しているのか。

〇足立次長

・朝練習をなくした学校で、朝練習が必要だという教職員は約３割いたと聞いている。その理由は、朝起きられなくなることや、朝運動をすることが学習に効果的であるという主張であったが、今のところ、遅れてくる生徒が増えているとは感じていない。

・部活の指導は、技術的な指導だけでなく、精神的な指導や子供たちの心の支援も必要となるため、人材を探すことに苦慮していると思う。

４　意見交換

〇深田委員

・ワクチン接種について、12 歳から 16 歳までの接種は、子供たちの人権も絡んでくるため、慎重に考えていただきたい。

〇林市長

・国の一方的な定まらない方針に困っているのが実情である。

・今やっと 65 歳以上の接種が進み、次に 64 歳以下と考えているが、最近になって薬が足りないという話が出てきた。

・学校については、接種会場へ来ていただく、または個別の接種という方向にならざるをえないと思っている。

・学校の中や、教育委員会の方に考えていただき、学校の生徒の接種はどういう方法が良いのか提言いただければ、その方向で進めていきたいと考えている。

〇深田委員

・打った子供と打たない子供と、差別意識が出ないように、また人権に配慮した接種をお願いしたい。

〇太田部長

・６月 21 日の議員総会で、ワクチン接種に関わる報告をし、議員からも同じような意見があった。

・今後、進めていく段にあたっては十分に配慮させていただく。

〇横山委員

・ワクチン接種は進んでいるが、行動が通常に戻るという考えも多く聞いており、また変異株が広がるという懸念がある。

・子供たちの学習がまた滞るという可能性が非常に大きいと思う。

・タブレットを早く導入したことによって、新しいものを扱うことによる問題を丹波市の場合は早く乗り越えられるという非常に大きなメリットがあると感じている。

・万が一、非常に強い緊急事態宣言が発生した時には、タブレットを使って子供たちをどのように教育していくのか、先手を打って考えてほしい。

・色々な課題が発生し、それをどうやって乗り越えていくのかを支援していく方策を、教育委員会も先手で考えていく必要があると思う。

・ICT を活用した技術も日進月歩で変わっていくため、新しい情報を収集する体制をしっかりと構築していく必要があると思う。

・今後どうしていくべきかをお聞かせいただきたい。

〇林市長

・コロナに関しては、常々恐れすぎず、されど侮らずと言っている。

・活動は戻すところは戻していくことを推進したいと思っている。

・アンテナを張り巡らせ、新しい事態が起これば、厳しく行動を律しなければならないが、地域の活性化を少しでも取り戻すような方向でやっていきたと考えている。

〇片山教育長

・発達段階に応じた情報活用能力の育成については、どういう使い方がよいのか、色々試している段階である。それが、働き方改革の業務の効率化にも関係してくるため、学校からどういう使い方をしているのか、そこにどんな問題が生じているのかなど、情報収集をした上で考えていきたいと思っている。

・児童生徒へのタブレット配布が早かったので、他地域に比べれば、先に進んでいけるのではないかと思っている。

〇出町委員

・教育大綱の中に、働き方改革が明文化されていないが、「安心して学べる居場所づくり」が、教職員の働き方改革に繋がると思う。

・今後は、働き方改革についても教育大綱に盛り込むことがテーマになるのではないかと思う。

〇林市長

・教育大綱は、改善すべきところは改善し、６年度には大きな改革も行う。それに向けて教育委員の皆様にも相談しながら作っていきたいと思う。

〇太田部長

・教育振興基本計画の方にも働き方改革のことが明記されており、そもそも教育振興基本計画との連携、整合を持たせながら、作成されたものである。

・重要度に応じた明文化の必要性については、今後協議をしていきたい。

〇片山教育長

・遅い時間からの会議や、調査物の報告のため遅くなることが多いと聞いている。

・ICT を活用したり、会議の持ち方を工夫すれば改善もできるのではないかと思う。

・一番大事なのは、管理職以下の先生自身の意識改革だと思う。

・先生が健康で元気に教室に立たないと、全くその意味がなくなると思う。

〇出町委員

・中央小学校では、複数のチーム制で子供たちの面倒を見ていくとか、氷上中学校では、中間テストをなくして、単元テストに切り替えたりしている。

・学校の大きな仕組みを切り替えている部分が実際に働き方改革に繋がっているのか。教職員に影響を及ぼしている点はあるのか。

〇足立次長

・どちらも、教育の質を高めることが目的である。

・特に中央小学校の４～６年生に効果を発揮しており、生徒指導を一人で抱え込まなくてよくなったと聞いている。

・出張や年休の場合にも、代わりの職員がいることにより、早期解決に繋がると聞いており、働き方改革に繋がっていると思っている。

・氷上中学校については、２年前に中間テストをなくしたが、昨年度はコロナの影響で、十分な検証ができていないため、今年度考えていかなければいけないと思っている。

〇出町委員

・成果があったことは、他の学校へも共有していただきたい。

〇深田委員

・校長を中心に、俯瞰できるような人を育てていかないと、働き方改革進まないと思う。

・抜本的なところを変えないと、今の子供たちの住んでいく社会は、住めなく

なってしまう。

・いろんなところで知恵を拝借し、教職員の働き方改革、丹波市ならではの抜本的な方向へ行けたらいいと思っている。

５　その他

（なし）

６　閉会

〇細見副市長　閉会の言葉

〇太田部長

・次回の会議については、市長部局の事務局と教育委員会事務局と日程調整をする。